

科目名	健康生活看護学(成人・周手術期)			ナンバリング	PEN242	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	後期後半	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	樫山 定美	担当教員	狩谷 恭子				

授業の概要	成人期にある人の健康課題として、手術療法を受ける人の病態生理について、手術療法および麻酔による侵襲、術後合併症などのメカニズムを学ぶとともに、人体の構造と機能に基づいてとらえ、それらに特徴的な治療方法および看護援助技術(術前・術中・術後)について学修する。また、特定の診療科で用いられる最新の診療技術や看護援助技術についても学修する。						
到達目標	1. 手術や外傷などにより生命危機状態にある成人の看護を理解するために、基礎となる主要概念や理論を踏まえ、身体的特徴や治療の概要、回復過程の看護が説明ができる。 2. 周術期(術前・術中・術後)にある成人の身体的特徴を述べる。 3. 手術療法と起こりうる合併症およびその予防と対処方法を説明できる。 4. 成人および家族の特徴を理解し、必要な看護援助について説明できる。 5. 周術期看護に必要な技術を演習により習得できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	1. 健康生活看護学(成人・急性期・周手術期)の科目は統合して学修する必要があります。さらに、慢性期・回復終末期の内容にも関連していることを理解し学修する。 2. 本科目では予習として該当講義内容の病態、解剖生理などについてテキストを熟読する。 3. 病態・解剖生理・検査などはノートを作成し、予習・復習とすることを推奨する。						
ディプロマポリシーとの関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	○	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 周術期(術前・術中・術後)の看護の特徴について述べる。 2. 手術および麻酔による身体侵襲と生体反応について述べる。 3. 術後合併症の発生時期と種類・メカニズム・予防および支援について述べる。 4. 消化機能障害(胃がん、大腸がん)による手術療法を受ける人・家族の支援について述べる。 5. 乳がんにより手術療法を受ける人・家族の支援について述べる。 6. 運動機能障害を負った人・家族の支援について述べる。 7. 周術期における看護技術を演習により習得できる。	1. 周術期(術前・術中・術後)の看護の特徴の全般について説明できる。 2. 手術および麻酔による身体侵襲と生体反応について記述し、説明できる。 3. 術後の合併症の発生時期と種類・メカニズム・予防および支援について根拠を説明できる。 4. 消化機能障害(胃がん、大腸がん)で手術療法を受ける人・家族の支援の特徴を説明できる。 5. 乳がんにより手術療法を受ける人・家族の支援と課題について説明できる。 6. 運動機能障害を負った人・家族の支援と課題について説明できる。 7. 周術期における看護技術を演習により習得し、技術および看護の特徴を説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					80%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
状況設定課題演習	○	○	○	○	○		10%

課題、評価のフィードバック	1. 授業内レポートは原則として返却しない。レポートに関する内容について、全体的な傾向と対策について指導の機会を設ける準備がある。個別に指導を希望する学生には対応する。 2. 講義中に確認小テストを実施した場合は、解説を行う。 3. 期末試験の解答は、学生からの要望があれば期間を設けて開示する。試験の成績不振の学生には学習指導・レポートなどを行う準備がある。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	術前、術中、術後の看護 疼痛管理、早期離床	手術前、術中、術後の看護について理解できる。 手術後合併症とその予防と看護支援を理解できる。 術後の疼痛管理と早期離床の看護援助について理解できる。	
	第2回	肺がんにより手術療法を受ける成人・家族の看護	呼吸機能障害をもつ成人の治療・検査に伴う看護、呼吸機能障害をもつ成人とその家族の把握の方法と看護の視点、支援について記述できる。肺がんなど、人体の構造と機能及び疾病論について記述できる	
	第3回	胃がんにより手術療法を受ける成人・家族の看護	消化機能障害をもつ成人の治療・検査に伴う看護、消化機能障害をもつ成人とその家族の把握の方法と看護の視点、支援について記述できる。胃がんなど、人体の構造と機能及び疾病論について記述できる	
	第4回	大腸がんにより手術療法を受ける成人・家族の看護	消化機能障害をもつ成人の治療・検査に伴う看護、消化機能障害をもつ成人とその家族の把握の方法と看護の視点、支援について記述できる。大腸がんなど、人体の構造と機能及び疾病論について記述できる	
	第5回	乳がんにより手術療法を受ける成人・家族の看護	乳がんを患った成人の治療・検査に伴う看護、乳がんを患った成人とその家族の把握の方法と看護の視点、支援について記述できる。乳がんなど、人体の構造と機能及び疾病論について記述できる。	
	第6回	脳血管疾患により手術療法を受ける成人・家族の看護	脳血管疾患を患った成人の治療・検査に伴う看護、脳血管疾患を患った成人とその家族の把握の方法と看護の視点、支援について記述できる。脳血管疾患など、人体の構造と機能及び疾病論について記述できる。	
	第7回	看護過程(事例:胃がん)	胃がんに罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第8回	看護過程(事例:胃がん)	胃がんに罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第9回	看護過程(事例:胃がん)	胃がんに罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第10回	看護過程(事例:胃がん)	胃がんに罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第11回	看護過程(事例:胃がん)	胃がんに罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第12回	看護過程(事例:胃がん)	胃がんに罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第13回	看護過程(事例:胃がん)	胃がんに罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第14回	看護過程(事例:胃がん)	胃がんに罹患した人への看護について事例をもとに展開する。	
	第15回	周手術における人・家族の看護 ま と め	周手術期で起こりうる倫理的問題と看護支援 ま と め	
	試験	期末試験を実施する。		
授業の進め方		1. 授業の理解度を振り返りシートの記載内容の確認を行い、疑問・質問・意見に答えつつ、次の授業に進む。 2. 状況に応じて確認小テストを実施する。(結果を評価に含める場合は事前に知らせる)		
授業外学習の指示		1. 手術療法の経験者の話を直接、聞く機会を得るよう努める。さらに、患者・家族の経験談の「本」を幅広く、読むこと。 2. 演習は演習課題に基づき予習・動画の視聴をおこなったうえで実施する。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	・ナースング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 安酸 史子・鈴木 純恵・吉田 澄恵著 株式会社メディカ出版 ・ナースング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況／セルフケアの再獲得 安酸 史子・鈴木 純恵・吉田 澄恵著 株式会社メディカ出版 ・ナースング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 中島 恵美子著 株式会社メディカ出版
参考書	・授業中、提示する。
参考URLなど	なし
その他	なし